

第3回 保安トップ懇談会（1月29日開催）の概要について

2013年1月30日
石油化学工業協会

最近の保安事故発生状況に鑑み、各社トップによる意見交換と相互啓発の場として12月5日の第2回に引き続き、第3回 保安トップ懇談会を開催致しましたので以下その概要をご報告します。

記

1. 日 時：2013年1月29日（火）10：00－12：00
2. 場 所：化学団体共用会議室（住友不動産六甲ビル 2階A会議室）
3. 出席者：

藤原 健嗣	旭化成(株) 社 長
一色 誠一	J X日鉱日石エネルギー(株) 社 長
池田 全徳	(株)日本触媒 社 長
札幌 操	(株)ダイセル 社 長
宮本 昭彦	経済産業省 製造産業局化学課長
高梨 圭介	石油化学工業協会 専務理事

(モデレーター)

田村 昌三 東京大学名誉教授

4. 懇談概要：

はじめに、高梨専務理事から、当懇談会の趣旨及び進め方についての説明に加え、第1回目（11月28日開催）および第2回目（12月5日開催）の概要についての紹介があった。

引き続き、田村名誉教授の議事進行にて4社のトップによる保安に係わる意見交換が行われた。

様々な発言があったが、主なものは次のとおり。

- ・ 化学産業の基礎は安全であり、トップの安全への強い意思を伝えること、技術力では、できるだけハードウェアで対処することが望ましいが、同時に経営を含めたソフトの対応も重要
- ・ トップの「安全が最優先である」とのメッセージを最先端まで届くように繰り返し発信することが大事
- ・ それぞれの現場の歴史と事情を踏まえた、優先順位をつけた安全対策の取

り組みを大事にすることが必要

- ・ ベテランのオペレーターたちが持っていた暗黙知を引き出し、冊子にして教育に使っている
- ・ 運転員の基礎的な力を高め、異常時に適正な判断ができるよう能力のかさ上げのための教育が必要
- ・ かつては、研究開発した人が技術を持って現場に異動となり、運転を担当するなど研究と製造と技術の人事交流が行なわれ、プロセスの設計思想などが引き継がれていた。部門間の人的な交流も大事
- ・ 安全活動をリードする人を育てること、先輩のKnow-Howを伝えていく仕組みが大事
- ・ トップの役割は思想を伝え、全体的な考え方を示し、現場の力を引き出すこと、現場はトップの思想を受けて具体的に進めること。更に、トップはこれらを組み合わせて回りだすようにすること。そのためには、トップの意志を伝える方法として、現場長の会議やQC大会に出席し、メッセージを発信するとともに聞くことが大事
- ・ 保安の取り組みについての自社の客観的な位置づけの把握も必要
- ・ 石化協の保安研究会では、安全に関して全てオープンにして情報交換を行っている。得た情報の生かし方は、それぞれの会社の方針によるが、このような場が大事

また、政府に対しては、真の安全確保は規制だけでは必ずしも向上せず、企業の自主的な取り組みとのバランスが大事であることを認識して、対応頂きたい旨の発言が行なわれた。

最後に、田村名誉教授から本日のまとめとして「トップの強いリーダーシップのもとに保安対策を一層強化していくことを本日の合意とする」ことの提案が行われ、全員の賛成のもと終了した。

5. その他

今後、同規模程度の懇談会を2回開催の予定。

以 上

《本件に関するお問い合わせ先》
石油化学工業協会 総務部（広報担当）
TEL：03-3297-2019